

あとがき

編集顧問

糸満盛憲
越智隆弘
荻野利彦
小野啓郎
竹光義治
守屋秀繁
富田勝郎
山室隆夫
矢部 裕

編集主幹

菊地 臣一
編集委員
金谷文則
黒坂昌弘
清水克時
高岸 憲二
土屋弘行
戸山芳昭
内藤正俊
吉川 秀樹

編集同人

井形高明
生田義和
井樋栄二
岩田 久
岩本幸英
大井利夫
小野村敏信
加藤博之
金田清志
腰野富久
紺野慎一
榊田喜三郎
酒 匂 崇
桜井 実

澤村 誠志
田辺剛造
田畑四郎
玉置哲也
中村耕三
馬場久敏
浜西千秋
廣谷速人
佛淵孝夫
三笠元彦
三浦隆行
持田讓治
山田治基
吉川 靖三

最近、日本では173年ぶり(東京で)の金環日食、634mの世界一高い東京スカイツリーオープンが話題となったが、今、世界で最も盛り上がっている国は英国であろう。過去に世界を制圧してきた大英帝国、その英国ではエリザベス女王即位60年のお祝いで沸いている。そして、本号が発刊される7月にはロンドン五輪が開幕する。北京五輪開催が昨日のように感じられるが、本号に時の流れの速さに驚かされる。IT化、グローバル化が進み、すべてにスピードが求められ、時の流れは益々速く感じられるであろう。

さて、わが日本の現状はどうであろうか。高齢化が進み、医療費や年金を含めた社会保障給付額は100兆円を突破した。国の負債総額も1,000兆円に迫り、国民一人あたりの借金は何と800万円に近づいている。そして、債務残高の国内総生産比は200%と世界最悪である。安定していた長期国債格付けも以前のAAからAAマイナス、そして、つい最近Aプラスへと急降下している。また、生活保護受給者も209万人にのぼり、その支給総額は年間3兆4,000億円に達している。加えて、防衛力を高めるために1機190億円の最新鋭ステルス戦闘機を今後42機(総額8,000億円)購入予定とも聞いている。このように国家財政は極めて厳しい状況にある。1,200兆円を超えるタンス貯金と低い消費税率、国債の高い国内保有率(95%)などにより、現在のところ財政破綻は免れているが、このままでは近い将来ギリシャと同じ状況に陥るとの指摘がなされている。

そして、医療界も大きな変革期を迎えているようである。専門医制度の構築もいよいよ正念場を迎えているが、地域医療の破綻解消を視野に入れた「総合医」や「家庭医・かかりつけ医」構想が浮上し、本格的協議が開始されている。基本領域に「総合医」が組み込まれ、地域医療(開業医)の中心にこの「総合医」が位置付けされると、日本の医療体制は大きく変わることになる。その時、整形外科の開業医はどうなるのか、大きな問題を含んでいるようである。運動器障害・疾患の診断、そして保存治療から手術までのすべてを担当してきた整形外科が、運動器を担当すべき独立性、専門性を確実に担保できるか否かがポイントとなる。多くのcommon diseaseが総合医の担当になると、腰痛、関節痛の保存治療も整形外科医の手から離れ、手術だけを行う運動器外科が整形外科となる可能性、危険性もある。本号の視座「地域医療再生と整形外科」の中でも、運動器への総合医の関わりについて触れられているが、今後、整形外科も真剣に「総合医」に関して検討すべきであろう。

ところで、高齢社会での医療は運動器への対応がますます重要となってきた。介護予防、健康寿命延伸に運動器の健康がkeyであることを行政、国民もようやく理解してきたようである。そんな中、平成25年からスタートする国民健康づくり10年の施策「第二次健康日本21」に、運動器関連の項目が複数盛り込まれた。これは極めて大きな意味を持つ。つまり、国が積極的に全国の自治体を動かして「健康日本21」に設定された目標値の達成に向け動くことである。運動器関連項目として、「ロコモ認知度の向上」「足腰に痛みのある高齢者の割合の減少」「運動習慣のアップ」「運動できる社会環境の整備」「一日歩数の増加」などが目標設定されている。10年後に「健康日本21」が第三次として継続された場合、「骨粗鬆症者の減少」「大腿骨頸部骨折の減少」「サルコペニア改善」「カルシウムやビタミンD摂取量増加」など、運動器の健康維持に必要な項目として取り上げられるためのしっかりしたエビデンスを、今から周到に準備し作り出しておく必要がある。つまり、「第二次健康日本21」と運動しつつ、今後10年が整形外科の将来を決める重要な時期にあることを認識すべきである。

さて、本号には「側弯症」「肩こり」関連の論述から手術手技、最新基礎科学や連載、さらに極めて参考となる臨床経験や興味ある症例報告が多数掲載されている。それぞれが示唆に富む論文であり、是非ご一読いただきたい。(戸山芳昭)

臨床整形外科 (第47巻第7号)

2012年7月25日発行(毎月1回25日発行)

定価2,625円(本体2,500円+税5%)

2012年 年間購読料(税込、送料弊社負担)

冊子版 29,400円

冊子+電子版/個人 34,400円

冊子+電子版/共有 38,900円

電子版/個人 29,400円

電子版/共有 33,900円

E-mail rinseige@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinseige>

オンライン投稿 ID: rinseige パスワード: rinseige

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 編集室直通 (03)3817-5702(担当:石井・山崎)

販売部直通 (03)3817-5659・5660

ファクシミリ (03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 ㈱アイワード 電話 (011)241-9341

広告申込所 ㈱医薬広告社 電話 (03)3814-1971

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 2012, Printed in Japan.

- ・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

・**JCOPY** (株)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の承諾を得てください。